

12

2011 DECEMBER

広報
なみえ



- 2 町民の皆さまへ
- 3 浪江町復興ビジョン・復興町民懇談会
- 6 まちの話題
- 8 祝成人式・情報びっくあっぷ
- 13 浪江のこころ通信
- 24 連絡先一覧・空間放射線量測定結果



浪江町復興ビジョン

町では、震災と原発事故によって失われた平和な暮らしを取り戻していくため、復旧・復興を考える取り組みに着手しました。避難生活の改善、町の復旧・復興に向けては多くの困難がありますが、町民の皆さまと意見を共有し希望となる復旧・復興に向けたビジョンをとりまとめていきます。



浪江町復興検討委員会名簿 (敬称略)

所属	団体名	役職	氏名
町民	1 津島区長会	会長	高橋 美雄
	2 苅野区長会	会長	山本 孝一
	3 大堀区長会	会長	高田 勝人
	4 権現堂区長会	会長	門馬 幸雄
	5 六地区区長会	会長	鈴木 充
	6 幾世橋区長会	会長	佐々木久雄
	7 請戸区長会	会長	鈴木 市夫
	8 津島地区下津島	区長	今野 秀則
	9 浪江町総合審議会	会長	岸 眞
	10 浪江町行政改革推進委員会	委員長	稲田 定重
	11 浪江町消防団	副団長	佐々木保彦
	12 JAふたば	理事	菊池 好平
	13 請戸川土地改良区	理事	松本 伸一
	14 相馬双葉漁業協同組合請戸支所	支所長	叶谷 守久
	15 室原川・高瀬川漁業協同組合	組合長	大井 良雄
	16 浪江町商工会	会長	松崎 俊憲
	17 " 女性部	部長	松本 茂子
	18 " 青年部	部長	原田 功二
	19 浪江青年会議所 (JC)	副理事長	石田 全史
	20 大堀相馬焼協同組合	理事長	半谷 秀辰
	21 浪江町建設業組合	組合長	戸川 英勝
	22 浪江町小中学校PTA連絡協議会	会長	佐藤 隆
	23 "	運営委員	佐藤 博美
	24 NPO法人コーヒータウン	代表	橋本由利子
	25 ビッコロクラブ (育児サークル)	代表	泉田 真美
有識者、国県町職員	26 福島大学	名誉教授	鈴木 浩
	27 福島大学 共生システム理工学類	教授	難波 謙二
	28 福島大学 行政政策学類	准教授	丹波 史紀
	29 高崎経済大学 地域政策学部	准教授	櫻井 常矢
	30 ふくしま自治研修センター	総括支援アドバイザー兼教授	吉岡 正彦
	31 東日本大震災復興対策本部 福島現地対策本部	参事官	坂 治己
	32 福島県原子力等立地地域振興事務所	所長	御代 典文
	33 浪江町	副町長	上野 晋平
	34 浪江町	教育長	畠山熙一郎
	35 浪江町役場庁内ワーキンググループ	代表	松本 孝徳



町民の皆さまへ

異郷の地での「除夜の鐘」

浪江町長 馬場 有

光陰矢の如しと言います。震災から9カ月の歳月が流れ、時は今「師走」になりました。慣れない風土の違う異郷の地で「除夜の鐘」を聞くと思うと、やるせない・悔しい・さびしい・しんが気持ちになり心が痛みます。現実を直視し、「明けない夜はない」ことを信じ、前に進むことを考えつつ、新しい年を迎えたいと思います。現在町では、町民代表で構成する復興検討委員会ならびに外部の専門分野で活躍する有識者会議で「復興構想ビジョンの素案」づくりを10月から着手し、ふるさとに「戻りたい人」「戻りたい人が戻れない人」「戻りたくない人」等のさまざまな視点にたつて、それぞれの町民の思いに添えていくよう、町の再生・創建の素案を今月中にまとめたいて考えております。また、日々の暮らしと生業を崩壊させられた私たちへの将来にわたつての

賠償・補償を獲得するため、国、東京電力に強力にアピールし、賠償紛争審査会の「中間指針」の全面見直しを要求します。さらに、加害者である東京電力には、人災の立場でその責任のもと迅速に賠償を行うよう強力に要求します。町といたしましても県弁護士会の「ブレイン・ハート法律事務所」、「福島原発被害者弁護団」と連携協働し、生活支援・生活再建を図りたいと存じます。健康管理・健康調査であります。県内外の全町民の内部被ばく検査、さらには甲狀腺の検査を引き続き実施します。国が責任をもつて医療支援を行うよう明示させ、確実に履行を担保する法制化を求めていきます。結びに、今年は生涯忘れられない最悪の年となりましたが、くる年は平穏で健康やかな希望の灯が見える年にしたいものです。寒さが一段と厳しくなる季節、くれぐれも町民の皆さまにはご壮健にお過ごしください。ご祈念申し上げます。

国への要望状況

- ◆10月17日・18日 野田総理大臣、小宮山厚生労働大臣、枝野経済産業大臣、細野環境・原発大臣、および平野復興担当大臣に直接要望を行いました。主な要望内容は、次のとおりです。
 - 損害賠償の対応見直し、放射線モニタリング強化、健康調査の強化、国の責任による除染・帰還ロードマップの早期作成、除染の早期実施、仮設住宅の改修強化、借上住宅等への支援強化、国民健康保険等の保険料免除
- ◆10月19日 民主党・新緑風会の議員団（興石幹事長など）にも同様の要望を行いました。
- ◆11月8日 衆議院議会運営委員会にも同様の要望を行いました（町民意見交換会を踏まえた内容を追加）。
- ◆11月下旬 緊急要望を行います（要望予定先：総理大臣、復興担当大臣、文部科学大臣、総務大臣、厚生労働大臣、国土交通大臣、原子力損害賠償紛争審査会など）。

今後も要望を行った場合はお知らせいたします。

浪江町復興検討委員会

町民の方々を中心に有識者も参加する検討委員会です。

〈第1回〉10月19日(水)開催

町民および町が抱える課題（不安・困難）を委員全員で出し合うとともに、何が必要となるかを検討しました。ふるさとの再生、それぞれの人の暮らしの再生、みんなで乗り越えていくことの必要性が話し合われました。

〈第2回〉11月11日(金)開催

東京大学アイソトープ総合センターの児玉龍彦氏（代理：和田洋一郎准教授）により放射能

問題、モニタリング、除染の方法、森林除染のためのバイオマス発電に関する講演をいただきました。その上で、暮らしの再生、ふるさとの再生のために必要となる取り組みを検討しました。

今後、12月に2回程度開催し復興ビジョンの素案をとりまとめたいきます（町民の皆さまには、1月初旬にお知らせする予定です）。

浪江町復興有識者会議

浪江町復興検討委員会に対して、専門的な観点から助言を行うための有識者会議です。※有識者会議の名簿は次回掲載します。

〈第1回〉11月11日(金)開催

- 11名の有識者からさまざまな提言が行われました。
- 町民の不安に添えるには飲料水、河川、空気中の放射性物質の把握が必要。機器や能力を有する大学（研究機関）の協力を得ることが望ましい。
- 現在のセシウムは水に溶けないため、土の移動を管理することが肝要。他地域の例では一般的な水道や井戸水にはでない。念のため長期的なモニタリングが必要。
- 森林を除染するためには木質バイオマス発電（セシウム回収装置）が有効。
- 各地域に避難している方々の

- ミーティングの場が必要。
 - 避難先の自治体との連携や協力について検討が必要。
 - 事業所の再開支援が重要。再開した事業所に光をあて機運づくりが必要。
 - 町民の帰還と産業・企業の復旧・復興は相互に連動する。
 - 住環境改善、復興拠点とするための住宅地の整備が必要。
 - 二地区居住も要検討。
 - 太陽光パネルの設置などにより被災地の活用を図るべき。
 - 復興への意欲を維持するためにも、避難期にどのような支援をするかが重要。
- 今後、12月に2回程度開催し、浪江町復興検討委員会に対して助言を行っていきます。

復興

町民懇談会

町では、避難生活の改善と町の復旧・復興のため、町民の皆さまからご意見を伺うため、懇談会を開催しました。町民の皆さまに開催の概要についてご報告します。



■開催期間・場所

10月24日(月)～11月4日(金)
福島市(南矢野目、県文化センター)、二本松市(男女共生センター)、安達運動場仮設住宅、桑折町(桑折駅前仮設住宅)、本宮市(白沢公民館)、東京都(江東区文化センター)……計7回

■意見の概要 (主な意見を抜粋)

1 避難生活の改善全般

①賠償

問 被災の実態を踏まえた損害賠償となっていない。精神的損害はさまざまであり、半年経過後に減額する扱いは大問題である。町として国や東京電力に強く改善を求めてもらいたい。

答 極めて重大な問題と考えています。町としても東京電力、総理大臣、関係閣僚などに重ねて改善を求めているほか、県内約200団体で構成している福島県原子力災害対策協議会を通じて強く改善を求めています。また、東京電力、さらには賠償指針を扱っている文部科学省に強く改善を求めています。

問 賠償について東京電力との交渉では、個人では勝ち目がない。町としても積極的に支援してほしい。

答 相手方は国の中間指針に固執して対応し、被災者の目線に立っていません。町としては弁護士会の協力を得ながら専門的な相談機会を確保することも、町独自としても弁護士事務所との協力を求め、相談・支援機会の拡充を図っていきます。また賠償の前提となる指針自体の見直しを求めています。

問 被災実態を理解してもらうため、行政だけでなく町民も含めた総決起大会を行う必要があるのではないかと。

答 実情が理解されていないことを危惧しています。双葉郡としても総決起大会を開催していきますので、皆さんにも参加をお願いします。

②住宅・支援

問 仮設住宅に比べて借上げ住宅では物資などの支援が弱い。どちらも避難者であり公平な扱いをすべきではないか。

答 町でいただいた物資については、仮設住宅と借上げ住宅で差が出ないように配分を行っています。ただし、民間団体等により直接仮設住宅へ支援を行っている場合や、仮設住宅のみを指定した物資提供などにより差が生じている面があります。町としては民間団体等に対して借上げ住宅も含めて支援していただくよう要請していきます。

問 県が設置した仮設住宅は、未舗装による埃、断熱のなされていないプレハブなど住環境として問題がある。早急に改善されたい。

答 町としても把握した不具合や問題点については、施設設置者である県に早急に改善するよう重ねて申し入れを行っているところで、徐々に改修工事が進みつつあります。皆さんの願いに応える迅速な対応に至っていない点については、今後、早急な改善を図っていくよう努めて参ります。

問 他県の公営住宅等に避難



答 避難が終わっていない中、入居期限が迫っていることは早急に改善が必要と考えています。以前から国には要請してきましたが、改めて国(担当大臣)に強く要請し、他県であっても安心して避難できるよう改善を求めていきます。

③放射能に対する不安・健康不安

問 現在住んでいる地域の放射線を自分で確認したい。町として線量計を配布してもらえないか。



問 「いつまでこの状態が続くのか」「いつになったら帰れるのか」が分からないことが苦痛。生活設計もできない。本来は国に言うべきなのだろうが、早く方針を示してもらいたい。

答 国が策定する除染計画が一つの目安になりますが、年度内の策定に向け作業中であり、現段階ではできていません。国の方針の提示を強く求めていくとともに、町としても、一定のスケジュールをお示しできるように復興ビジョンにおいて検討していきます。

も含めて町の復旧に取り組んでいきます。

問 果たしてどこまで除染ができるのか疑問。

答 津島中学校近辺、ふれあいセンター近辺の2カ所国が本格的な実証実験を行う予定です。効果が確認できれば、早急に本格除染に着手する方針となっています。除染については、さまざまな技術を集めていくことが不可欠です。

問 莫大なお金をかけて除染するよりも、そのお金で賠償してもらった方がよいのではないか。

答 そのような考え方があることも理解しています。ただし、除染の実証実験を行うところであり、まずは除染に取り組みます。

③復旧・復興の方針

問 浪江町は町内でも線量の高いところ、低いところと違いがある。低いところを拠点として復旧に取り組んでいくことを考えていくべきではないか。

答 町内では現在の避難先よりも線量が低い地域がありますので、そのような地域を拠点として復旧にあたることも検討します。

紙等にあわせてお知らせするよう努めて参ります。

④ふるさとへの絆

問 以前の行政区の人たちと交流する機会を作って欲しい。

答 町としても行政区の活動を支援していくとともに、各地区の方々が集まって話ができるような機会を設けていきたいと考えています。11月6日の十日市では地区ごとの交流スペースを設けました。

2 町の復旧・復興

①町民の意向

問 若い人は帰ることは難しいと考えている人が多いはず。今、どんな考えを持っているか把握することが必要ではないか。

答 9月に福島大学が双葉郡内のアンケートを実施し、その結果が11月にはとりまとめられるため、それを活用します。また、町独自のアンケート(高校生以上の全町民)を実施し、幅広い世代の意見を把握します。

問 除染を否定するつもりはない。帰りたい人、帰れないと考えている人、どちら





B-1グランプリ 全国4位

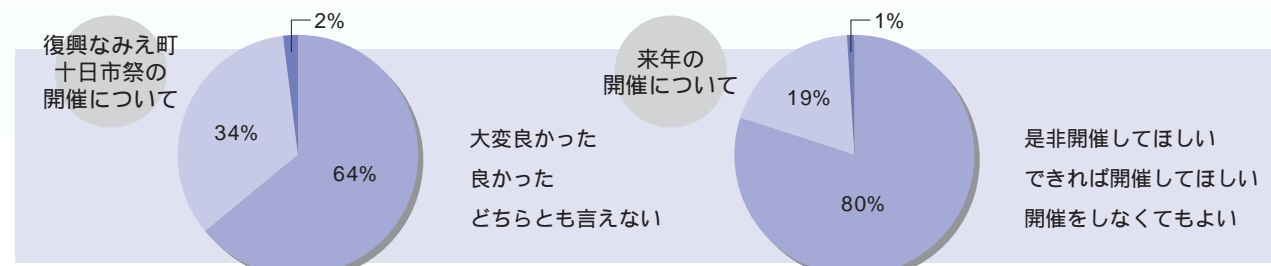
11月12日、13日の2日間、兵庫県姫路市で「B-1グランプリ in HIMEJI」が開催され、浪江町から浪江焼そば「なみえ焼そば」が出展しました。「なみえ焼そば」のブース前には長い列ができ、「なみえの味」を求める多くの方でにぎわいました。2日間の結果、63団体中第4位となりました。おめでとうございます。

復興なみえ町十日市祭

11月5日、6日の2日間、二本松市二本松駅前周辺を中心に「十日市」が開催されました。

会場では、相馬流山踊りや請戸の田植踊り、ふるさと8mm上映会などが催され、ふるさとを懐かしみくしぶりの再会を喜ぶ多くの来場者でにぎわいました。

当日実施されたアンケートでは、98%の方から十日市祭の開催について「大変良かった・良かった」との回答をいただき、80%の方から「ぜひ来年も開催してほしい」との回答がありました。



ふくしま駅伝 感動のゴール

11月20日、第23回ふくしま駅伝が開催され、白河市をスタートに県庁までの96.5km、16名の選手がタスキをつなぎました。

選手が全国各地に避難し、思うような練習ができない状況の中で、総合27位、町の部10位入賞を果たしました。

大会参加にご協力いただいた関係者の皆さま、沿道で応援して下さった皆さま、ありがとうございました。



地域を守って17年

浪江地区防犯指導隊長 君島勝見さん(室原)が東北管区警察局長および東北防犯協会連絡協議会会長の連名表彰を受賞されました。

君島さんは、平成6年10月に発足した浪江地区防犯指導隊の隊長として17年間地域を守り続け、その成果が実を結び、今回の受賞となりました。おめでとうございます。



浪江町の義援金

11月16日現在、669件 3億757万6,266円の義援金が寄せられています。このうち、1億6,714万円が各世帯へ配分されています。皆さまの温かいご支援、ありがとうございます。

アメリカから 浪江町へ



アメリカ合衆国カリフォルニア州に住むメリア・プリンスちゃん(10歳)から義援金が届けられました。3・11の東日本大震災、津波そして原発事故と甚大な被害を受けた浪江の子どもたちのことを知り、何かしてあげたいと、メリアちゃんは自分の大切にしているおもちゃを売って、そのお金を困っている人たちに送ろうと思いつき、毎日1人でおもちゃやぬいぐるみを抱えて近所の家々を歩いて回りました。近所の皆さんは、メリアちゃんの気持ちに打たれて、快くおもちゃを買ってくださいました。集まったお金は少しでしたが、それにおばあさんがお金を足して300ドルを送ってくださいました。大切にに使わせていただきます。



ありがとうございました

学校法人拓殖大学理事長福田勝幸様(交友会福島支部長、副支部長来庁)から拓殖大学北海道短期大学の学生が栽培収穫したお米をいただきました。ありがとうございました。



株式会社ネクスト様(代表取締役 菊池勝雄さん)からハンドル付電動自転車3台と毛布一式をいただきました。



2011UIA世界建築家会議東京大会同時開催・2050 EARTH CATALOGUE展実行委員会様(代表 中村 勉さん)から義援金が届けられました。



11月24日、歌手の南こうせつさんとさだまさしさんから義援金が届けられました。この義援金は、8月に愛知県名古屋市で開催された「東日本大震災復興支援コンサート」の収益金やさださんが会長を務めるNPO法人に寄せられた義援金によるもので、原発事故で避難する10町村へ贈られました。



伊那商工会議所青年部(部長 網野 暁さん・長野県伊那市)から復興支援リストバンドの売上金の一部が義援金として届けられました。

祝 成人式

とき 2012年1月8日(日)
 ところ 安達文化ホール
 (二本松市役所安達支所内)
 受付10時 開式11時



はたちの旅立ち

成人式を迎える皆さん、おめでとうございます。
 成人とは、大人として社会的責任を負う節目を意味する大切なときです。
 町では、皆さんの将来の活躍を期待し、祝福しています。

浪江地区

安倍 由紀・有隅 詩織
 石澤 大河・石澤 千明
 石田 明歩・泉 翔大
 伊藤 遥平・稲本 幸平
 岩野 汐里・岩野 泰平
 植田有希子・植野竜之介
 内海絢士郎・大浦 理恵
 大胡 茜・大越加奈子
 大谷 理・大野 真大
 岡部 隆也・尾崎 達郎
 鎌田 彩伽・川島 ゆう
 木村 允一・國安祐太郎
 熊野由季也・鍛野 友甫
 小池真太郎・古農 綾
 木幡 歩・木幡 瞬
 今野 勝弘・今野 翼
 坂下 彰宏・佐川 俊之
 佐々木 駿・佐々木 亮
 佐藤 幸恵・佐藤 大輝
 佐藤 知美・佐藤 晴紀
 佐藤 秀明・佐藤 将司
 佐藤 梨沙・佐藤 良太
 三瓶 一樹・志賀 太一
 柴口 大・下河邊彩嘉
 陶 亜紀子・末永 早織
 鈴木 彩乃・鈴木 耕拓
 鈴木 俊哉・鈴木ゆりな
 瀬野由里香・高木沙也加
 高木 春樹・高野沙也加
 高橋 卓麻・高橋 優美
 瀧口 香里・滝口 希
 武内 淳美・武内 健治
 田中 えり・田中 真理

幾世橋地区

安倍 大樹・安倍 裕貴
 大熊 賢人・黒崎 勇樹
 木幡 由紀・佐藤 綾香
 佐藤 信史・志賀真璃奈
 鈴木啓二郎・鈴木 翔
 鈴木 匠・鈴木 宏彰
 高木真理子・船迫 翔伍
 村上 裕紀・山本 紫織
 横山 梨香・渡邊 眞衣

請戸地区

安倍みさと・荒川 岳之
 金澤満里奈・叶谷 章
 菅野 真人・志賀 啓太
 志賀 祐太・島 大介
 菅沼恵理子・鈴木 綾乃
 鈴木由里奈・只野 優歩
 長峰 真実・蜂須賀健悟
 本田 彩夏・本田 遥香
 吉田 壽人・渡部 絃樹
 渡部 美緒

大堀地区

愛澤 純・青田 一希
 井手 宏・遠藤 光輝
 岡田 瞳・岡沼 勝人
 小野田千裕・小野田 龍
 鴨川 優一・黒木美奈子
 坂口 翼・佐藤 智幸
 佐藤ひとみ・志賀 成紀
 新開 成美・鈴木 達也
 高田 透・田代 広美
 土屋 奈月・松本 亜実
 山中 奨子・横山 貴明
 吉田 晏菜

津島地区

国分 元希・小林 嵩英
 木幡なつ美・今野 美幸
 佐藤 文香・佐藤 有紗
 佐藤 麻衣・佐藤祐太郎
 志賀 諭・前司 栞
 高住 克幸・遠山 賢人
 徳田 理香・沼能 稜介
 福田 裕希・星 大樹
 松本 雄史・宮口 大
 宮田 和樹・山田 紘子
 山田 舞・山本 江里
 横田 彩花・横田 諒太
 吉田 壮志・吉田 裕理
 渡部 美穂

苧野地区

相川友加里・愛沢 芳絵
 猪狩 菜緒・猪狩 美緒
 石井 美咲・石田 隆
 板倉 重和・井上 大
 大友 裕二・掃部関優子
 菅野 将伍・黒江 静香

(敬称略)

情報

問合せ
申込み
電話

ファックス
メールアドレス
ホームページアドレス
フリーダイヤル

ぴっくあっぷ

平成24年度浪江町奨学資金奨学資金奨学生募集

平成24年度の浪江町奨学資金の申し込みを受け付けます。
▽対象者
 ・浪江町に引き続き2年以上住所を有している方のお子さん
 ・高等学校、高等専門学校、大学、短期大学、専修学校(修業年限2年以上)への入学希望者(途中貸付も可能)
▽申し込み方法
 ・国、県または他の団体から同種の奨学資金の貸与または給付を受けていない方
 ・町内在住の保証人が必要です。
 ・奨学生願書(保証人の実印押印)にご記入の上、推薦調書、

浪江町消防団出初式

平成24年浪江町消防団出初式を開催します。
▽日時
 平成24年1月8日(日)
 13時30分～

浪江中学校体育館(旧針道小学校)

二本松市針道字堤崎25番地
 ※駐車場は、東和文化センター前駐車場をご利用ください。
▽日程
 集合 13時30分
 開会 14時
 出初式 14時30分
 15時30分
▽服装
 法被上下、ネクタイ、略帽、上履き、軍手
 ※準備ができない場合は、作業着等での出席も可能です。

TEL 0243-62-0151
 災害救援班

● 幼稚園就園奨励費補助金 ●

平成23年4月1日から幼稚園に入園されている方で、市町村民税の所得割課税額が183,000円以下の世帯に対し、補助金を交付します。
 現在、避難先の自治体で補助金の申請をしていない方のみ対象となります。
 該当する保護者の方は、ご連絡ください。

▷申請期限 平成24年2月末
 ▷支給時期 平成24年3月

1 兄・姉が幼稚園児の場合

区分	第1子	第2子	第3子以降	
公立	生活保護法の規定による保護を受けている世帯	20,000	50,000	79,000
	当該年度に納付すべき市町村民税の所得割が非課税となる世帯	20,000	50,000	79,000
私立	生活保護法の規定による保護を受けている世帯	223,200	264,000	303,000
	当該年度に納付すべき市町村民税の所得割が非課税となる世帯	193,200	249,000	303,000
	当該年度に納付すべき市町村民税の所得割課税額が34,500円以下の世帯	109,200	207,000	303,000
	当該年度に納付すべき市町村民税の所得割課税額が183,000円以下の世帯	46,800	175,000	303,000

2 兄・姉が小学1～3年生の場合

区分	第2子	第3子以降	
公立	生活保護法の規定による保護を受けている世帯	35,000	79,000
	当該年度に納付すべき市町村民税の所得割が非課税となる世帯	35,000	79,000
私立	生活保護法の規定による保護を受けている世帯	244,000	303,000
	当該年度に納付すべき市町村民税の所得割が非課税となる世帯	222,000	303,000
	当該年度に納付すべき市町村民税の所得割課税額が183,000円以下の世帯	111,000	303,000

TEL 080-2807-6933

TEL 0243-62-0301

福島地方事務局からのお知らせ

福島地方事務局訟務部門および人権擁護課は、平成24年1月16日(月)から移転します。

▽移転先

福島市本内字南長割1-3
福島地方事務局分室内

●訟務部門

TEL 024-534-1976

●人権擁護課

TEL 024-534-1994

いわきコンピュータ・カレッジ入学生募集

いわきコンピュータ・カレッジでは、平成24年度の入学生を募集しています。また、「被災学生(家族へ特別優遇)および「オープンカレッジ参加者への入学試験受験料免除」も実施しています。

■募集内容

〈第3期募集〉

▽出願期間

平成24年
1月13日(金)～2月2日(木)

平成23年度自動車税

原子力災害により、平成23年度自動車税の課税時期を延期していましたが、原子力災害被災自動車の救済措置が整ったことなどから、このたび次の日程で課税を実施する予定です。
▷納税通知書の発付日 12月12日(月)
▷納期限 平成24年1月31日(火)
救済措置などの詳細は、最寄りの地方振興局県税部にお問い合わせください。また、県外へ避難されている方は、地域ごとに対応する振興局へお問い合わせください。

現在の避難先	連絡先	電話番号
北海道・東北地方	県北地方振興局県税部(福島市)	024-523-0051 0021
東京都・千葉県・神奈川県	県中地方振興局県税部(郡山市)	024-935-1261 1264
茨城県・栃木県・群馬県	県南地方振興局県税部(白河市)	0248-23-1519
新潟県・東海地方・近畿地方	会津地方振興局県税部(会津若松市)	0242-29-5261 5264
富山県・石川県・福井県	南会津地方振興局県税部(南会津町)	0241-62-5214 5213
埼玉県、四国地方、九州地方、沖縄県	相双地方振興局県税部(南相馬市)	0244-26-1127
山梨県・長野県・中国地方	いわき地方振興局県税部(いわき市)	0246-24-6025 6035

▽入学試験日

平成24年2月13日(月)

〈第4期募集〉

▽出願期間

平成24年
2月22日(水)～3月14日(水)

▽入学試験日

平成24年3月21日(水)

■被災した学生への特別優遇

●家屋全壊または世帯主死亡の場合

↓授業料半額免除および財団奨学金の貸与

●家屋半壊または世帯主失業(大規模半壊を含む)

↓授業料3分の1免除および財団奨学金貸与

※他の優遇制度との併用はできません。

■オープンカレッジ参加への入学試験受験料免除

オープンカレッジに参加した受験生の入学試験受験料1万円を免除します。

●被災の有無にかかわらず平成23年度内に実施したオープンカレッジに参加し、平成24年度学生募集の入学試験を受験する方が対象。

▽オープンカレッジ日程

平成24年
1月21日(土)、2月18日(土)

TEL 問 いわきコンピュータ・カレッジ

0246-0711

震災 法テラスダイヤル

日本司法支援センター(愛称:法テラス)では、東日本大震災の被災者の方々の法的支援に特化した電話窓口として、コールセンターである法テラス・サポートダイヤル内に、「フリーダイヤル」「震災 法テラスダイヤル」を設けました。

■震災 法テラスダイヤル

TEL 0120-078309

▽業務時間

平日 9時～21時
土曜日 9時～17時

▽業務内容

被災された方が直面する法的問題の解決に役立つ法制度や各種手続き、相談窓口等の情報提供 ※被災によって生じた法的問題以外のお問い合わせは、法テラス・サポートダイヤル(TEL 0570-078374)をご利用ください。

雇用・労災・労働・年金に関する被災者支援無料相談会

雇用・労災・労働・年金に関する被災者支援無料相談会を開催します。

▽開催場所

福島県男女共生センター(二本松市)

▽日時・会場

日にち	時間	会場
12月1日(木)	13:00～17:00	第1研修室(4F)
12月8日(木)	13:00～17:00	1F特設会場
12月15日(木)	13:00～17:00	第1研修室(4F)
12月22日(木)	13:00～17:00	第1研修室(4F)

▽相談員

社会保険労務士 1名

▽相談内容

東日本大震災および福島第一原発事故等による雇用・労災・労働・年金に関すること

TEL 問 福島県社会保険労務士会 丹治 024-535-4430

国道114号からの警戒区域への通行禁止

これまで国道114号から町内に通行するときは、下津島地区の車両検問所を経て、警戒区域に入る事ができましたが、福島県警と協議し、防犯や冬季間の安全確保などの強化を図るため、12月6日から当分の間、緊急車両以外通行できなくなります。公益立入り等で警戒区域内へ立ち入りする場合は、南相馬市検問所

警戒区域内等の火災に対する消防本部、浪江消防署の活動状況

住民不在の警戒区域等で火災が発生した場合は、延焼等を防ぐことが困難な状況下にあることは言うまでもありません。このことから、現在双葉地方広域市町村圏組合消防本部では、富岡消防署榑葉分署、川内出張所、葛尾出張所および南相馬消防署と連携をとり、火災の規模が甚大であった場合、計画的避難

浪江町仮設住宅進捗状況

(11月15日現在)

仮設住宅の進捗状況をお知らせします。

市町村	名称	建設完了戸数	既入居戸数	残戸数
桑折町	桑折駅前	286	218	68
	桑折町計	286	218	68
二本松市	郭内公園	100	98	2
	塩沢農村広場	98	82	16
	岳下住民センター	64	61	3
	旧平石小学校	82	64	18
	安達運動場	244	231	13
	建設技術学院跡	30	26	4
	杉田住民センター	33	30	3
	杉内多目的運動広場	234	138	96
	杉田農村広場	64	57	7
	大平農村広場	66	65	1
	永田農村広場	54	33	21
二本松市計		1,069	885	184
福島市	笹谷東部	182	162	20
	南矢野目	208	176	32
	北幹線第一	196	173	23
	森合町	18	15	3
	しのぶ台	112	53	59
	宮代第一	128	39	89
	宮代第二	48	20	28
	旧佐原小学校	32	28	4
	福島市計	924	666	258
本宮市	石神第一	57	30	27
	石神第二	80	21	59
	栗木平	27	19	8
	小田部	42	31	11
	和田石上	18	12	6
	高木	114	51	63
患向	137	135	2	
本宮市計		475	299	176
相馬市	大野台第8	93	93	0
	相馬市計	93	93	0
合	計	2,847	2,161	686

TEL 問 住宅支援班 TEL 0243-62-0123

仮設診療所担当医師予定表(12月)

診療時間
午前 8時30分～12時
午後 13時30分～16時
浪江町仮設診療所
(二本松市油井字長谷堂230番地 安達運動場内)

12月														月日	担当医師				
28日(水)	27日(火)	26日(月)	22日(木)	21日(水)	20日(火)	19日(月)	16日(金)	15日(木)	14日(水)	13日(火)	12日(月)	9日(金)	8日(木)	7日(水)		6日(火)	5日(月)	2日(金)	1日(木)
関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根	関根
西	佐藤	佐藤	今村	西	佐藤	佐藤	玉井	今村	西	佐藤	玉井	今村	西	佐藤	佐藤	今村	玉井	今村	手塚
手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚	手塚

線量計の貸し出し

町では、線量計を貸し出ししています。使い方は簡単ですので、どなたでも気軽にご利用できます。
▷借用できる方 浪江町に住所を有する方
※申請者(窓口で手続きをする方)が借用者(実際に使用する方)と異なる場合も貸し出し可能です。また、浪江町に住所がない申請者でも手続きできます。
▷貸し出し期間 原則5日間
※借用者の都合により、適宜対応します。
▷受付時間 9時～17時
▷貸し出し場所
●浪江町役場二本松事務所 ※毎日貸し出し可。
●桑折出張所(桑折町役場2階)
●福島出張所(福島市役所9階西側)
●本宮出張所(白沢総合支所1階)
●いわき出張所(いわき市文化センター2階)
●南相馬出張所(旧東北農政局福島農政事務所 南相馬統計・情報センター)
※各出張所は、月～金曜日貸し出し。土日祝日は不可。

TEL 問 災害救援班(放射線管理) TEL 0243-62-0123 TEL 090-3971-0492

除染モデル事業実施

国による除染モデル事業を町内2カ所で実施します。この事業は、効果的、効率的に除染するためには、どのような手法が一番良いのかを実証するために行います。その結果をふまえ、国において除染方法を決定し、除染計画を策定します。その計画にそって本除染を実施します。

■除染モデル事業実施地区

- 大字下津島字松木山地内(つしま活性化センター周辺) 実施面積:約4ha
- 大字権現堂字矢沢町地内(ふれあいセンター周辺) 実施面積:約10ha

皆さまのご理解・ご協力をお願いします。

TEL 問 災害救援班 TEL 0243-62-0123

浪江の こころ通信

・第6号・

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、福島県内外に分散避難した浪江町民。長期化する避難生活、先が見えない不安の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

こうした町民の思いをつなげるために、“浪江のこころプロジェクト”が立ち上げられました。東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会(※)が中心となり、全国各地のNPO、大学等の皆さんが取材を進め、浪江町との連携のもと「浪江のこころ通信」が編集・発行されます。

浪江のこころプロジェクトは、分散避難している町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信」を通してお届けし、ふるさと浪江町がかつての暮らしを取り戻すことへの願いとこだわりを発信・共有しようとするものです。

※東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会は、東北圏(7県)の地域コミュニティ再生や協働のまちづくりの推進を目的として、大学、NPO、企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信／第6号」への感想をお寄せください。

【連絡先】〒976-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1 男女共生センター内 浪江町役場二本松事務所 「浪江のこころ通信」宛
FAX.0243-22-4261



福島県弁護士会被災者支援活動

- 震災・原発無料電話相談
相談料は無料。通話料のみかかります。
▷対象 震災・原発事故で被災された方
▷受付時間 平日14時～16時
Tel 024-534-1211
Tel 024-925-6511
Tel 0242-27-2522
Tel 0246-25-0455
- 震災・原発無料面談相談
予約制です。
▷対象 震災・原発で被災された方
▷実施場所 福島市、二本松市、郡山市、白河市、会津若松市、いわき市、相馬市の7カ所
▷予約方法 平日10時～16時の間に、☎0120-700-791へお電話ください。相談場所へのアクセス、相談曜日、時間などは予約の際にお問い合わせください。
■原子力発電所事故被害者救済支援センター
▷対象 原発事故で被災された方
▷支援内容 原発事故の被害者救済を支援するため、弁護士を紹介します。センターが紹介した担当弁護士にお客さまからご連絡していただき、ご予約の上、担当弁護士の事務所にて相談あるいは依頼となります(相談は3回まで無料)。
▷受付時間 平日午前10時～15時
Tel 024-533-7770
- インターネットや携帯電話での情報提供
HP <http://business3.plala.or.jp/fba/>
携帯HP <http://business3.plala.or.jp/fba/k/>

就職でお困りのことはありますか

ふるさとふくしま巡回就職相談ステーションでは、これから仕事をしたい方、新たに職業を探している方の相談に応じています。自分に合った仕事がない、仕事の情報が得られない、履歴書の書き方がわからないなど就職に関する困りごとがあればご連絡ください。

ふるさとふくしま巡回就職相談ステーション(※福島県委託事業)

震災に伴うローン返済等に関する相談窓口

個人債務者の私的整理に関するガイドラインに基づき、一般社団法人個人版私的整理ガイドライン運営委員会

月々土曜日 10時～19時
ステーション福島
福島市丸字町頭17-6
(福島商業高校そば)
Tel 024-554-4156
ステーション郡山
郡山市菜根5-11-3
(郡山商業高校そば)
Tel 024-925-0811

☎0120-380-883

ローン運営委員会が問い合わせや相談を受け付けます。住居や勤務先、事業所、取引先等が震災の影響を受け、借入れが返済不能の方が、ガイドラインの利用により返済方法の変更や債務の減免などについて金融機関と話し合うことができます。

福島県外の民間借上げ住宅特例措置

民間賃貸住宅等を応急仮設住宅として受け入れている県は次のとおりです。(11月16日現在)

■福島県県外避難者支援担当 ☎024-523-4157

都道府県	問い合わせ先	都道府県	問い合わせ先
青森県	017-734-9580/9581	新潟県	025-280-5444
岩手県	0120-882-606		025-282-1775
宮城県	022-211-3257	長野県	026-235-7407
	0120-960-003	山梨県	055-223-1477
	「11199」を入力 仙台市、七ヶ浜町の申込受付終了。	岐阜県	058-272-8693
秋田県	018-860-4503	愛知県	052-954-6579
山形県	023-630-2640/2646	兵庫県	078-232-9564
	山形市、米沢市、南陽市、高島町は 受付終了。		078-341-7711
茨城県	029-301-5977	鳥取県	0857-26-7411
群馬県	027-226-2950/2951	島根県	0852-22-5084
	027-223-5811	長崎県	095-895-2410
	027-226-3718	熊本県	096-383-1111
千葉県	043-223-2675	宮崎県	0985-26-7196
神奈川県	045-210-5985	鹿児島県	099-286-2824
		沖縄県	090-3794-0530/8217 090-3792-3168/3161 090-3790-0137/1713

こころの健康相談

「不安で眠れない」「夜中に目が覚める」「考えがまとまらない」「何も手につかない」「食欲がない」など困りごとがあれば相談しましょう。

- ◆福島県精神保健センター
☎0570-064-556
- ◆福島いのちの電話
☎024-536-4343

ごみの出し方

— マナーを守りましょう —
ごみの出し方は、地域によって異なります。
収集日や収集時間、分別方法をよく確認し、マナーを守って出しましょう。



荒川 勝己さん(請戸)

取材者:(特活)岩崎NPO 高橋
取材日:11月9日

帰りたくても、帰れない

地震があって、津波が来て、逃げて。その翌々日の13日、荒川さんは妻と一人娘と3人で、妻の実家である秋田県湯沢市岩崎地区へ“緊急避難”し、現在、妻と2人で近くのスーパーストアで“接客サービス”をこなしている。

最初のうちは、妻と娘をこちらに預けて、自分は災害復興で戻ろうかという気持ちだった。しかし、原発の放射能で入ることができなかった。そんなこんなうちに、こちらで仕事が見つかったので…。今のところ仕事があって、収入もあるし、お父さんの所で一緒に住む場所もある。現在困っていることは特別にない。一番の時に戻れば、人命救助なり災害復興なりで入りたかったけど…。

もともと米とお花の専業農家だった。それだけでは食えないので、コンビニや電気屋でバイトしていた。だから、接客ということに関してはそん



職場の休憩時間での荒川さん

なに困ることはない。農業はひとりでの作業だが、接客の仕事はみんなとできるので、むしろ楽しいくらい。

田んぼは9割方小作だが、去年の作付けが6町5反。花は300坪くらい。津波で家、田んぼ、花畑、何もかも全部やられて、何も残っていない。

線量の少ないところから帰してくれるという話が今出ているようだ。原発の場所は家から4キロあるが、私の所は線量が非常に少なく、こちら辺と大した変わらない。が、帰れと言われても帰れないです。町の基盤も、家も、仕事もないから。

浪江の仲間、みんなが元気でまた会えればいいなあといつも思っています。



吉田 忠春さん・輝子さん(室原)

取材者:きょうとNPOセンター 田口
取材日:10月19日

「あの時(3月11日)を思う!! 笑顔と希望を忘れずに」

<吉田輝子さんの手記より>

吉田さんは、ご家族とご親戚総勢23人で、2日をかけて義姉の旦那さまの弟さんを頼りに、京都に避難して来られました。寝たきりの84才の母(以下「おばあちゃん」と5カ月のお孫さんも一緒でした。現在、京都のアパートで、息子さんご家族と一緒に生活されています。



吉田忠春さんと輝子さん

3月15日、家族・兄弟みんなが集まる中、決断をしました。「親戚のいる京都へ、一緒に行こう。」吹雪の中、新潟まわりで北陸道を通り、5台の車で移動。ひどい渋滞でした。ガソリンはすぐ無くなり、少しずつみんなに分け合って補給しました。おばあちゃん、酸素ボンベの充電が切れると、命がつけられない。電気補給にも必死でした。京都に来てからは、親戚のみならず、自治会長さんをはじめ、周りの方にとってもよくしてもらっています。

おばあちゃん(の介護)を中心、毎日の付き添い)を送っています。おばあちゃん孫たちの存在が私たち家族を助けてくれていると感謝しています。私は百姓だから体を動かして仕事をしたいです。草刈りでもなんでもしたいと思っていますが、今は事情があって仕事ができず、家族のために網戸をつくったりもしています。室原の自然クラブのメンバーと一緒に、休耕地が荒れないようにとひまわりやコスモスを植えていたことも懐かしい。お酒を酌み交わした仲間たちのことをよく思い出します。遠く離れていても連絡を取り合える仲間がいることは心強い。一方で、家族以外の人とゆっくり話ができない今、寂しい気持ちにもなります。やっぱり浪江へ帰りたい。帰ることは難しいこともわかってはいます。でも、いずれ福島県内には戻ることができたらと思っています。



休耕地に咲くコスモス



原田 富子さん(高瀬)

あの日 あの時 そして今

福島県内からの投稿

現在原田さんは、福島市内の借上げ住宅で避難生活を送っています。

平成23年3月11日、12日、この世の出来事とは思えない惨事があった。3月12日早朝、菅首相の命令で即刻避難するように…着の身着のまま、急いで家族5人車に乗った。指定された避難場所津島の体育館へと向かい、10分ほど走ると道路という道路は車、車、車…。いつ目的地に着けるやら。普段なら30分で行ける場所へ5時間余りかかってようやく着いた体育館の中は、人であふれていた。やっとのことで片隅に座ることができホットするとそれもつかの間、同日午後3時半、原発で水素爆発があり、一斉に車に飛び乗り体育館を後にした。

私たちは幸いにも福島市の庭坂に二男が住んでいたそこでそこへ避難した。その夜は、親戚等が次々避難してきて、20人ほどで一夜を過ごした。13日

の朝になって親戚の人たちもそれぞれの知人を頼って、庭坂を後にした。私たちは、二男の家で1カ月ほど世話になり、その後指定された宿へ行き、4回ほど引っ越して、今は借上げ住宅で暮らしている。

知らない土地、知らない人たち…。でも、みんなみんな親切に声をかけてくださって、本当にありがたい。

それでも、80年浜通りに生きてきた私たちには、気候をはじめ、あれもこれも数え上げればきりがない不自由なことばかり。

でも、仕方がない。あれこれ気に病んでも解決できない問題なのだから。

せめて、これから残された人生、ほんのひとときでもいいから、安らぎの時間がもてたらと、毎晩祈っています。



東京都

今野 昇さん(津島)

取材者：高崎経済大学櫻井研究室 櫻井・山本・小根山
取材日：11月19日

遠くにいても浪江の復興を心から支えていきたい

津島でガソリンスタンドを営んでいた今野さん。地震後は、浪江の避難所でボランティアとして1カ月ほど頑張っていたが、4月上旬に現在の東京都町田市に妻、長男(小学5年生)と3人で移り住み、新たな生活を送っている。

震災直後は、すぐに事業を再開できると考えていました。しかし、原発事故が甚大だと知り、町民の皆さんと一緒に二本松市の東和に避難しました。何かの役に立てればと3週間余り、避難所のボランティアに協力させて頂いていただきました。しかし、生活の糧と息子の今後を考え、町田市に移りました。幸いにして友人が仕事を紹介してくれましたが、現在は来年春までの契約社員です。これまでとはまったく異なる業種ですが、幸いにして今までの趣味が役立ち何とか頑張っています。こちらでは被災者ではあっても、それに甘えることなく、自分たちの力で乗り越えなくてはいけないことを



実感しています。日々の生活の中で被災者優遇など、何もありません。浪江を離れて暮らしていると、同じ福島県からの避難者であるのに、市町村によって対応が異なることが気になります。甲狀腺の検査などでも連絡をいただきますが、正直、そのために福島まで戻るのは負担にもなります。新しい土地になかなか馴染めず、仕事が見つからないだけでなく、話し相手もいない方がいるようです。例えば、県外それぞれの避難先で、福島県からの避難者のまとまった窓口をつくり、生活の課題を把握したり、福島県避難者のための働く場の確保を行うなどの工夫

があってもいいと思います。避難生活の長期化の中で、ぜひ考えていただきたいです。一時帰宅で荒れ果てた津島の風景を見るたび、以前の津島を取り戻すことは並みの努力ではできないと痛感しています。むしろ、あきらめる方が多いのではないかと絶望感に駆られます。でも、テレビで商工会青年部が頑張っている様子を見るたびに勇気をもらいます。同時に、皆さんがこんなにも頑張っているのに、自分たちが何も協力できないことにもどかしさを感じます。祖父の代から地域の皆さんに支えられ給油所を経営してきたにもかかわらず、何も皆さんにないさつもできずに浪江を去ったことに、むしろ仲間たちを裏切ったような罪悪感と悲しさを覚えることもあります。でも、決してそうではない。私も浪江に帰って、昔の連中と頑張りたい。そんな苦しい思いを妻とよく話しています。いつか浪江の皆さんと会える日が来ることを信じて、遠くからではあります。浪江町の復興を支えていきたいと思っています。



宮城県

大内 善一さん・ひとみさん(権現堂)

取材者：地域社会デザイン・ラボ 遠藤
取材日：11月19日

浪江町のコミュニティを仙台で

5月6日に仙台駅近くで「仙台中央接骨院・大内鍼灸院」を開業された大内夫妻。

現在は、地域になじめるように、そしてお客さまが気持ちよく訪れていただけるように、一人ひとりとのコミュニケーションを大切にしながら暮らしている。



接骨院の正面入り口にて。ブログも見てね！
<http://blogs.yahoo.co.jp/ouzen3914>

震災時は、ちょうど午後の診察中でした。患者さんにご自宅へお帰りいただきたかったら、骨折された方が来院。素早く患部を固定し松葉杖をお渡しして「津波が来るだろうから逃げよう。」とその場を後にしました。その日の夜は、高台に住む親戚の農家のビニールハウスで過ごしました。その後は、津島中学校、さらには福島市の姉の家に避難。その後、息子が4月から学校に通うため契約して

いたアパートがある名取市に移動。働きたいという気持ちと腕をなまらせたくないという思いで、名取市文化会館でマッサージのボランティア活動を4月末まで続けました。その後は、接骨院の恩師に仙台市若林区の現在の物件を紹介され、迷う間もなく開業を決定しました。引っ越しは5月1日。私たちがらしい素敵な雰囲気になるように部屋の模様替えをしたり、忙しかつたですね。そして何とか6日には開業することができました。その後は、近隣のお店や住宅約300件を訪問し引っ越しのあいさつ。顔を覚えていただくために、ちょっとした声かけを心がける毎日でした。少しづつ応援してくれる仙台の方が増えたり、テレビで取り上げていただいたお陰で今は忙しくさせていただいています。

接骨院が休みの日は、夫婦で自転車に乗って仙台市内各地に出かけます。「まち歩き」ですね。仙台は知らない場所ばかり。患者さんがいらつしやるエリアが分からないと、接骨院までの道案内もできません。だからこそ、

勤めていただいた場所はなるべく訪れるようにしています。そうすると、その後話が深まり楽しいです。これから取り組みたいと思っているのは「浪江町仙台支部」を作ること。浪江町出身者やゆかりのある人が仙台近郊にいらつしやるのが分かりました。今後は、この皆さんと食事会や交流会を開催して交流を深めたいですね。そして、通信やかかわり版のようなものを作成して皆さんに配布したり。できたら全国各地に「浪江町 支部」ができるといいなと考えているところ。これからは今ある環境や人々とうまくやれるように努力し、患者さんに元気になってもらえるように自分も前向きで元気にありたいと思っています。



長岡 新一さん・仁子さん(苧宿)

取材者：(特活)市民公益活動パートナーズ 佐藤
取材日：11月10日

今、一番の思いは 「浪江に帰りたい。必ず浪江に帰る。」

浪江町苧宿で農業を営んでいました。今は、福島市大森の借上げ住宅の息子家族が住む上階に住んでいます。



金婚式を迎えた、笑顔がすてきな長岡さんご夫妻

と、言うに言われぬ感慨があります。田に苗を植え稲を刈り米を作り、畑を耕し種を蒔いて野菜を作り…。浪江という土に生きて、土から恵みを得て、今思うと自然の厳しさと豊かさに育まれて、夫婦つつがなくよく生きてきたものだと思います。生まれ育った土地だから、代々受け継いできた土地だから、物作ってききました。今が一番の思いは「浪江に帰りたい。必ず浪江に帰る。」です。自身を奮い立たせるように、強く思っています。

震災時、私は自分の田んぼでトラクターを運転中でした。妻は棚塩公民館で、「武扇会」結成30周年記念発表会に向け、踊りを教えていました。妻は津波の情報も知ることなく、練習を切り上げ何とか帰宅、その後棚塩公民館が津波で変わり果てた姿となったのを見たときは、背筋が凍る思いでした。県内外の避難所や親戚宅を転々として、土湯温泉の旅館を後に、ここ福島市大森の借上げ住宅に落ち着きました。仮設住宅に比べると情報が入りやすく、孤立感を感じることありませんが、この借上げ住宅の上下階で、前後して息子家族も住むようになり、心強く思っています。



踊り「武扇会」師匠である仁子さん。「相馬流れ山」を福島市芸能祭で各避難先から駆け付けられたお弟子さんたちと披露



山田 拓司さん・乃里恵さん(加倉)

取材者：ピースバンクいしかわ 谷内
取材日：10月23日

もう一度みんなで集まってバレーでもやりたい

系列工場への転勤の形で避難をしてきて、石川県金沢市の市営住宅で暮らし始めて8カ月が経つ、山田さんご夫妻と3人のお子さんたちのご様子を伺いました。

拓司さん
福島で勤めていた系列の工場がこちらにもあり、震災から1週間位で会社から社員全員転勤の辞令が出たと連絡がありました。転勤と言っても状況が状況なので家族と話し合って決めてくださいとのことでした。私は双葉町の工業団地に勤めていて工場の復旧は困難と思い、妻とも相談しこちらに来ることにしました。

乃里恵さん
やっぱり帰れたら、今まで通りの生活をしたいですね。おじいちゃん、おばあちゃんもいて、子どもたちも寂しくないでバレーでもやりたいですね。

会社に行けば福島から来た同僚がいるので少しだけ福島の雰囲気があります。子どもたちもすっかりこちらの生活に慣れ友達もできました。妻が勤めていた会社は原発事故により規模を縮小したため解雇されましたので、今は金沢での仕事を探しています。

とメールしたんです。そしたら「寂しくなるけどきつとまた会えるよ。」ってその一文だけの返信メールが返ってきて…。なんかそのときはすごく抑えきれないものがありました。本当なら今ごろの時期は、お正月に奉納する神楽の練習をしているところなんですけど。みんなに会える日を楽しみにしています。



(右から)山田拓司さん、湊世くん(4歳)、乃里恵さん、玄琉くん(1歳)、真生くん(3歳)

ろうし。以前は一緒に住んでいたの、一番上の子は幼稚園に行つて、下の子2人はおじいちゃん、おばあちゃんに見てもらっていたんです。今でもおじいちゃん、おばあちゃんに会いたいですね。



石井あかねさん(小5)〔棚塩〕

取材者：(特活)市民公益活動パートナーズ 松田
取材日：11月14日

「おうちでのんびりしたいなあ」

仮設住宅の向かいにある佐原小学校は定員一杯になっているので、毎日スクールバスで少し離れた荒井小学校まで通っている小学5年生。

初めは浪江町の津島に避難し、二本松市や福島市土湯温泉町を経て7月末に福島市佐原の仮設住宅に引っ越してきました。

お父さんとお母さん、弟の京輔くん(小3)と妹のあゆみちゃん(小1)の5人暮らしで、おばあちゃんたちも同じ仮設住宅の別棟に避難しているので、いつでも会いに行けるそうです。

みんな元気にしてるかな？
学校は弟と妹も一緒に、毎日12人でバスに乗ります。しのぶ台からも同じくらい人数が乗って、みんなで通っています。バスの中では、トランプなどのゲームをしたり、本を読んだりしているから、けっこう楽しいですよ。友だちもたくさんできて学校も楽しいけど、女子のチームがないので浪江でやってきたソフトボールができないのがちょっと残念かなあ。
走るの、どっちかという短距離よりも長距離の方が好きで、練習のときには6年生と一緒に走って4位だったので、学校の記録会でどんな記録が出るか楽しみです。
最近、算数が好きになってきました。それから国語とかも好きです。将来は、お医者さんのような人を助ける仕事にできればいいなあと思っています。
3月の地震のときは、ちょうど5校時目が終わるところで、4月から幾世橋小学校の1年生になる妹にあげるプレゼントを作っていました。
最初は、「小さな地震かな？」と思っただけで、けっこう大きな地震だったので驚きました。自

分は泣かなかったけどボウゼンとしていました。
みんなで校庭に避難して家からの迎えを待っているときに、寒くてジャンパーを取りに教室に戻って、また校庭で待っていました。
浪江の友だちにも会いたいです。近くには避難している人もあまり連絡できないし、遠く県外に行っちゃった人もいるから、なかなか会えないですよ。
友だちと「サンブラザ」で、鉛筆のかわいいものやいろんなアクセサリーを買うのが楽しかったです。こんなじゃちゃつと難しいなあ。
寒いのは苦手だけど、仮設で元気にしているよ。
9月からは放射線の線量計が渡されたので毎日つけています。体育のとき以外はちゃんとつけていますよ。でも休みの日に遊びに出かけるときは、ときどき忘れることもありますけどね。
これから冬になると、寒くなるのが苦手。
スキーとかは全然やったことがありません。浪江ではあまり雪が降らないので、どうしようかなあと考えているところ。
学校に行くときは、寒くない



仮設住宅の部屋で
(仲良し3姉弟(右:あかねさん、中:あゆみちゃん、左:京輔くん))



原中 正義さん(田尻)

取材者：元気玉プロジェクト実行委員会 江川
取材日：11月19日

出口はまだ見えないが、助け合ってやっていく以外、方法はない

田尻地区区長である原中さんは、地域でともに暮らしてきた皆さんに「伝えたいこと」を抱えていました。田尻地区としての今後の行政について、田尻の地で再び力を結集できることを願って、今できることから活動に取り組みられています。



震災直後は伊達市の親戚宅にお世話になっていましたが、3号機の爆発後、喜多方市へ避難し、現在は家族で市内の借上げ住宅に入居しています。避難直後のストレスから体調を崩した母も、ようやく生活のペースをつかみかけてきたようです。とはいえ、地元の方から「会津の冬は経験してみたいと、わがんながらなし」といった言葉を耳にするなど、いまだ先行きの不安は消えません。それとともに、温暖で穏やかな浪江での生活がつくづく懐かしく思い出されま

田尻地区は、3月に期末監査

と総会を控えていましたが、直前の11日に思ってもみなかった大震災に見舞われ、以来、業務はストップしてしまいました。役員の皆さんが集まっていたことができたのは、生活がようやく落ち着いてきた8月末。27日に二本松市の男女共生センターで平成22年度の期末監査を行い、次いで第1回役員会も開きました。その協議の結果、当面の方向性が決定したので報告させていただきます。
第一、田尻行政区の「役員」は、平成22年度末をもって改選時期だったが、行政区住民を招集して総会を開催することは現状困難であるため、全役員が引き続きその職にとどまり、行政区財産の管理および必要な事項を処理することとする。
第二、「大字費」については徴収しない。
第三、「役員その他の報酬」については支給しない。
第四、浪江町で計画する復興計画等に要請があった場合は全面的に協力する。
第五、事故収束後の早期帰宅を目指し、田尻地区民の現状把

握に努める。以上です。
一時帰宅で目にした故郷の荒れた姿は、何とも情けなく、もどかしさを感じました。自宅復帰を果たすには原発事故の早期収束が前提になりますが、避難解除になれば、この先、地域としてやるべきことは山のように出てくるはず。
一方で、今現在、借上げ住宅や仮設住宅に入居していても、生活上の問題はひっきりなしに発生し、どこまでいっても出口はなかなか見えてきません。当面、助け合ってやっていく以外方法はないのだと思います。
これまで田尻地区の皆さんと連絡を取る方法がなく、困っていました。今回、このように「広報なみえ」「浪江のこころ通信」を通じて、田尻行政区の情報もお伝えできたこと、感謝しています。皆さん、今どのように過ごされているでしょうか。この難局を乗り越え、田尻の地で、また皆さんと元気に会いたいものです。その日がくることを切望しています。



福島県

小山 恒雄さん(高瀬)

取材者：ビーンズふくしま 味川
取材日：11月11日

再び会える日を心待ちにして

二本松市の借上げ住宅で避難生活を送っている小山さん。「故郷を離れて8カ月。浪江にまた帰りたいという気持ちは強くなります。」

今は、二本松の借り上げ住宅に住んでいます。8畳2間。前の生活と違って不便・不自由もありますが、それも言っていない。昔は学校とか町の活動がありました。今は何もなくて、人との交流もありません。役場に行けば人に会うことができますが、普段の暮らしの中で交流がないのが寂しいです。退職後、ゴルフが唯一の趣味でした。地震にあったのもその帰り道。あと10分、その道を通るのがずれていたら、津波にあっていたかもしれないと言われませんでした。

浪江町は、自然がいっぱい美しいふるさとです。緑が多く海あり山ありで、町をはさんで二つの川が流れ、鮭が遡上していきます。大堀相馬焼とか昔ながらの伝統工芸も盛んで、落ち着いた雰囲気誇れる町です。

先日、「ふるさとに戻りたい73%」「戻らない27%」という双葉郡住民の調査結果が報道されました。原子力発電所の廃炉まで30年と言いますが、私たちは10年がいいところですよ(笑)。放射能は怖いけど、浪江町に帰

りたいという気持ちの方が強いんです。浪江町にもどることができたら、まず今までおつきあいのあった皆さんの方々一人一人に会いたい。そして、ゴルフもしたいです。元々親睦のあった方とは現在も月に一度会って親睦を深めています。数人の親戚とは電話のみで、震災後まだ一度も会っていません。早く浪江に戻れる日が来てほしいです。今一番期待しているのは、科学の力。除染の方向にもっと進歩してほしいと思っています。散布すると放射能が消えてしまふ。というふうなものをつくってほしいです。そういうことは、いくらお金を使ってもいい。これから30年は長すぎます。ラジウムの発見から110年。放射能を消去するよう新しい物質の発見を期待します。

今後の要望は…風評被害をなんとかしてほしいと思います。気持ちは分かりますが、そういうもののほとんどは、無知からくるものだと思います。地域で開催される懇談会でも参加者の怒りの声がよく聞かれます。



(左から) 恒雄さんと奥さまのセツ子さん

でも、役場の人も頑張っています。私は今できることから、そして皆で力を合わせ前向きにやっ

てほしいと思っています。



神奈川県

金澤 麗奈さん(請戸)

取材者：高崎経済大学櫻井研究室 櫻井・山本・小根山
取材日：11月19日

津波で亡くなった祖父、友人の思いを胸に頑張っていきたい

麗奈さんは、震災後、親戚何人かで福島県内から埼玉、神奈川へと転々と移動し、5月初めに現在の川崎市宮前区にお母さんとおばあちゃんと3人で暮らしている。現在は、家族と支え合いながら、転校した中学校で元気に頑張っている。

私は、友だちの家で遊んでいるときに、あの地震にあいました。中学校のグラウンドに逃げたあと、役場に無事避難することができました。友人の大浦清華ちゃんが、この地震で亡くなったことが本当に悲しいです。あの日、もし一緒に遊んでいたら無事でいられたのではないかと悔やまれて仕方ありません。私のおじいちゃん、地震のとき、親戚の初七日で双葉町郡山に出かけていました。慌てておばあちゃんと一緒に請戸の自宅に戻



(左から) 麗奈さんと祖母のナカさん

ると地域の皆さんは避難していたようで、すぐに津波が来ました。おじいちゃんは、私が部屋にいたと思って2階にあがったようです。玄関口にいたおばあちゃんは押し寄せてくる津波を見て、通りがかりの車に助けられました。おじいちゃんを残したままで逃げてきたことを悔やんでいるおばあちゃんを見てみると、どんなにかつらい気持ちかとかわいそうでなりません。話し相手もなくマンションの中に一人でおばあちゃん、浪江の皆さんと請戸のなまり言葉で話したいといつも言っています。家では私に元気に話しかけてくれるおばあちゃんですが、一人で寂しそうにしていることが気がかりで、以前のように請戸の人たちが周りにいたら、もっと元気でいられるのにもと思います。お母さんは、避難生活の中で体調を崩し入院したり、今もときどきため息をつきながら私に話しかけることが多いです。毎日の生活や仕事の中でストレスを抱えているのではないかと心配です。

私は今の中学校で、仲のよい

友だちもできて楽しく通っています。8月には、私も所属している浪江のよさこい踊りのチーム「Wonderなみえ」が、高知のサマースクールに招待され、1週間本場のよさこいに参加しながらみんなと過ごしました。とは何よりもうれしいです。私は、なみえ焼そばを応援するユニット「NYTS」にも所属していて、イベントなどでみんなと活動していたことが懐かしいです。亡くなったおじいちゃん、短歌や川柳、民謡を歌うことが好きで、郷土を思い請戸の民謡を作ったCDにしたり、仲間と「民謡バンド」を組んで活動していました。私もおじいちゃんに似たのか、音楽や人前で歌うことが大好きです。

将来はアニメの声優をめざして頑張りたいです。いつか必ず浪江町に戻りたい。仲の良かった友だちと一緒に遊んで、前のように暮らせる日がくることを待っています。

空間放射線量測定結果

町が独自に実施した空間放射線量測定結果をお知らせします。

☎ 災害救援班（放射線管理） TEL 0243-62-0123

（測定地：地上高 H=1.0m 単位：μSv/h）

浪江町内小中学校等 ※浪江町内は、隔週で測定

測定地	測定値 (10月21日)	測定値 (11月4日)	測定値 (11月18日)
役場津島支所	7.96	8.15	7.77
津島小学校	7.98	8.96	8.07
津島中学校	10.90	11.00	11.20
浪江高等学校津島校	15.40	16.30	14.00
苅野小学校	8.34	8.77	8.41
川添字中上ノ原地内	7.25	7.42	7.06
大堀小学校	6.93	7.28	6.50
浪江中学校	9.75	10.50	9.76
ふれあいセンターなみえ	9.45	9.90	9.10
浪江小学校	1.34	1.38	1.31
浪江高等学校	3.87	4.08	3.87
藤橋字龜下地内	1.66	1.87	1.70
浪江町役場	0.64	0.68	0.65
北幾世橋字北中谷地地内	0.68	0.68	0.68
幾世橋小学校	0.48	0.56	0.54
請戸小学校	0.28	0.31	0.30
浪江東中学校	0.55	0.62	0.57

仮設住宅等（二本松市）

測定地	測定値 (11月7日)	測定値 (11月14日)	測定値 (11月21日)
郭内公園仮設住宅	0.46	0.45	0.36
塩沢農村広場仮設住宅	0.17	0.20	0.20
安達運動場仮設住宅（Aブロック）	0.55	0.52	0.52
安達運動場仮設住宅（Bブロック）	0.36	0.36	0.36
浪江小学校（旧下川崎小）	0.58	0.53	0.54
浪江中学校（旧針道小）	0.49	0.49	0.49
建設技術学院跡仮設住宅	0.29	0.29	0.30
太平農村広場仮設住宅	0.42	0.40	0.36
杉内多目的運動広場仮設住宅（中央西）	0.24	0.24	0.26
杉内多目的運動広場仮設住宅（中央東）	0.23	0.25	0.27
旧平石小学校仮設住宅	0.28	0.29	0.28
杉田農村広場仮設住宅	0.66	0.61	0.61
杉田住民センター仮設住宅	0.30	0.32	0.35
永田農村広場仮設住宅	0.15	0.15	0.16
岳下住民センター仮設住宅	0.45	0.43	0.38

仮設住宅（桑折町、福島市）

測定地	測定値 (11月2日)	測定値 (11月10日)	測定値 (11月17日)
桑折駅前仮設住宅（第一集会所）	0.17	0.18	0.15
桑折駅前仮設住宅（第二集会所）	0.14	0.23	0.20
宮代地区仮設住宅（西側）	0.37	0.35	0.35
宮代地区仮設住宅（集会所）	0.32	0.34	0.38
北幹線第一仮設住宅（北集会所）	0.11	0.12	0.19
北幹線第一仮設住宅（南集会所）	0.15	0.15	0.15
笹谷東部仮設住宅（東集会所）	0.18	0.20	0.19
笹谷東部仮設住宅（西集会所）	0.28	0.26	0.30
南矢野目仮設住宅（北ブロック集会所）	0.18	0.15	0.19
南矢野目仮設住宅（南ブロック集会所）	0.14	0.13	0.13
森合仮設住宅	0.33	0.36	0.40
しのぶ台仮設住宅	0.14	0.11	0.13
佐原地区仮設住宅	0.09	0.09	0.10

連絡先一覧

■浪江町役場二本松事務所

〒964-0904
福島県二本松市郭内一丁目196-1
（福島県男女共生センター内）
TEL 0243-62-0123 FAX 0243-22-4261

■浪江町役場二本松第二事務所

〒964-0904
福島県二本松市郭内一丁目81
FAX 0243-23-7970

●浪江町教育委員会

TEL 0243-62-0301

●二本松避難者生活支援班

TEL 0243-62-0302

■福島出張所

〒960-8601
福島県福島市五老内町3番1号
（福島市役所9階西側）
TEL 024-535-0750 FAX 024-535-0753

■本宮出張所

〒969-1203
福島県本宮市白岩字堤崎494番地22
（本宮市役所白沢総合支所1階）
TEL 0243-44-1185・1186
FAX 0243-44-1187

■桑折出張所

〒969-1611
福島県伊達郡桑折町字東大隅18番地
（桑折町役場2階）
TEL 024-582-2130 FAX 024-582-2135

■いわき出張所

〒970-8026
いわき市平字堂根町1番地の4
（いわき市文化センター2階第4会議室）
TEL 0246-24-0020 FAX 0246-24-0026

■南相馬出張所

〒975-0039
南相馬市原町区青葉町2-62-2
（旧東北農政局福島農政事務所南相馬統計・情報センター）
TEL 0244-23-1112 FAX 0244-23-1114

■浪江町議会事務局

〒964-0917
福島県二本松市本町一丁目60番地の2
（安達地方広域行政組合自治センター2階）
TEL 0243-22-9531 FAX 0243-22-9532

■浪江町社会福祉協議会

〒964-0904
福島県二本松市郭内一丁目81
（浪江町役場二本松第二事務所内）
TEL 0243-62-0877 FAX 0243-23-7970

仮設住宅（本宮市）

測定地	測定値 (11月1日)	測定値 (11月8日)	測定値 (11月15日)
患向仮設住宅	0.28	0.24	0.27
高木仮設住宅	0.40	0.35	0.39
小田部仮設住宅	0.31	0.25	0.26
石神第一仮設住宅	0.43	0.44	0.44
石神第二仮設住宅	0.41	0.41	0.41
栗木平仮設住宅	0.25	0.25	0.24
和田石上仮設住宅	0.55	0.43	0.54



平成23年12月 551
毎月1回1日発行

発行・編集 福島県浪江町役場総務課
福島県二本松市郭内一丁目196-1男女共生センター内
TEL 0243-62-0123(内) FAX 0243-22-4261
http://www.town.namie.fukushima.jp



ホームページやフェイスブックは、
携帯からもご覧いただけます。
QRコードをご利用ください。

